

専門学院生が地元に戻って

伐採作業などの就業実践実習



8月26日から9月6日まで、道立北の森づくり専門学院2年の松岡一斗さんが地元の新冠町での実習を希望し、(有)名須川林業で伐採作業などの就業実践実習を行いました。今回は初の受け入れとなる(有)名須川林業の伊藤洋志代表取締役は「林業作業員が減っている中、林業に目を向けてくれた。今回の実習が成長につながると思う。来春の卒業が楽しみ」と話していました。

災害を想定し

親子で防災キャンプ

9月7日と8日の2日間、教育委員会は朝日の森で「防災キャンプ体験」を開催し、小学生とその保護者24名が参加しました。この事業は、災害時の避難所生活を想定し、避難所に備蓄してある防災資器材を使って生活する体験事業として行われました。参加者は段ボールベッドや防災テントの組み立て、炊き出しや焚き火など避難所で生活するために必要なことを体験しました。また、陸上自衛隊静内駐屯地の協力で、人命救助システムの見学と活用体験も実施しました。

大切なのは「浮くこと」

小学5年生が着衣水泳を体験



9月9日、新冠小学校5年生の児童たちは町民プールで着衣水泳を体験しました。着衣水泳は水難事故の際に身を守るために役立つ技術で、新冠消防の指導のもと行われました。児童たちは「泳ぐことより浮くことが大切」と学んだ後、服の中に空気を入れて浮く方法や空のペットボトルを使って浮く方法などを体験しました。

小学生が福祉体験教室で

高齢者に夕食弁当を配達



町保健福祉課は9月2日から5日まで福祉体験教室「ふれあい夕食配達」を開催し、10名の小学生が参加しました。参加した小学生は放課後、町民センターに集合し、高齢者向けの夕食配達事業である「ふれあい夕食」事業の説明を受けた後、民生委員らと一緒に夕食弁当を配達しました。訪問先で参加児童が手紙を添えてお弁当を渡すと、利用者は大変喜んでいました。

ポロシリ生活館で

新冠無縁墓供養法要が行われる



9月18日、新冠アイヌ協会はポロシリ生活館で、アイヌの伝統的な儀式である第42回新冠無縁墓供養法要(イチチャルパ)を執り行いました。この日は北海道アイヌ協会や近隣町のアイヌ協会のほか、鳴海町長や氏家議長などの来賓が出席し、昨年10月に完成した合葬墓に眠る先人の霊を慰めるため、神酒を捧げるカムイノミなどの儀式が行われました。

アイルランド大使が

町長を表敬訪問



9月30日、デミアン・コイル駐日アイルランド大使が新冠町を訪れ、町長を表敬訪問しました。今回の大使来道は北海道との連携を深めるため、当町のバカパカファームで催しが開催されたことから訪問が実現したものです。対談で大使は「経済や競走馬の生産などアイルランドと似ている部分が多いので、今後、更なる連携を図りたい」と述べられました。

その2

まちの話

題

あれこれ

故・久保田實さんの

回顧展を開催

9月19日から22日までの間、故・久保田實さんが生前住んでいた字北星町の自宅で回顧展が開催されました。久保田實さんは、新冠町で教員として勤務した経験があるほか、絵画サークル「アトリエの会」の講師も務めました。また「文藝にいかっぷ」の表紙絵やレ・コード館に展示している大きな油絵を描いた方でもあります。この回顧展は息子の慎吾さんが「父にとつて最後の個展を開きたい」と



の思いで開催したもので、自宅には油絵、水彩画を中心に450点以上の作品が展示され、多くの人が訪れました。

今年度で100歳を迎える町民に

内閣総理大臣からの祝状を伝達



9月の敬老月間に合わせ、来年3月までに100歳を迎える5名の町民に対して、内閣総理大臣祝状の伝達と記念品の銀杯が贈呈され、併せて、新冠町から長寿祝金が贈呈されました。町内各所で行われた伝達式ならびに贈呈式では、ご家族などたくさんの方々に見守られ、長寿を祝うと共に、末永い健康を祈念しました。

○来年の3月までに百歳を迎える皆さま

藤田 愛子さん (写真①右側)

長濱 マツさん (写真①中央)

長濱 スミ子さん (写真①左側)

下村 ミヨ子さん (写真②)

山口 八重さん (伝達式欠席)

